



「国宝」

春

秋の大祭や支部の感謝会などでお聴きする尊者の御声「五法則」の最後に、次のお言葉があります。

「天地宇宙の法則は、忠に孝、仁義礼、これ大日本国民の神代時代以来の国宝であります」

簡単に言い換えれば、「天地宇宙の法則は、忠孝仁義礼である。この五常は、日本国民にとって遥か昔からの国宝なのである」という意味です。

国宝とは、白鷺城の名で知られる「姫路城」や日本最古の漫画と称される「鳥獣戯画」、様々な建築物や美術品など文化史的・学術的に極めて価値が高く、類い無いものであると国が認めた「日本の宝」です。金剛さまはなぜ、五常が日本の国宝であるとおっしゃられたのでしょうか。

金剛さまの示された「五常」とは、人として常にするべき五

つの徳目です。神を敬う心で相手と誠実に向き合う「忠」、親・先祖を尊び、そのお蔭に報いようとする「孝」、相手を尊重し思いやる「仁」、自分の果たすべきことを率先して果たそうとする「義」、そして「礼」はすべてに對して感謝報恩の真心を具體的な形（行動）で表すことです。

「五常」は連綿と受け継がれてきた日本の伝統精神です。これを生活の中で心がけ実践する人こそ、金剛さまが理想とされた人間のあり方であり、まさに日本の宝なのです。

そして、この「五常」を実践されているのが天皇后両陛下はじめ御皇室の方々です。日々神を敬い祖先を尊ばれ（忠孝）、ひとたび国内で災害が起これば、被災地へ駆けつけて現地の人々に寄り添われるお姿は、ひたすら国民を想う慈愛（仁）を感じ

ずずにはおられません。多忙さに顔を曇らせることなくご公務を全うされ（義）、どのような人に対してもし礼節をもって接しておられます（礼）。

金剛さまは「模範とするなら御皇室である」と仰せられました。こつて具体的なお姿をもって私たちを導いてくださる御皇室は、私たちの模範であり、日本随一の国宝です。

理想の生き方として金剛さまが示された「五常」を実践すれば、必ず家族や友人、社会から喜ばれ、必要とされる人間になります。自らの価値を高めるためにも、日頃から「五常」を心においた行動や判断を心がけていきましょう。

◎皇室を手本に、私たちにできる五常の実践例を考えてみましょう。